東京薬科大学新聞
発行所
東京薬科大学
新聞会
責任者
藤村ゆりか

新聞会
会員
大募集

学内連絡会議

―学費値上げについて―

去る十月十九日に図書館棟四階第一会議室に於いて、学内連絡会議が行われた。これは、平成四年度の学費値上げについての学校側の説明を求めるために、学生自治会からの要請により開かれたものである。

学生側の質問は会議に先立ち執行委員会によって学校側に提出してあり、その質問に沿って会議は進行した。学校側の返答を以下に掲載する。

（一）平成四年度学費について

一、学費値上げの具体的金額及びその理由

平成四年度初年度納入金は十一万二千円上昇し、百七十二万六千円になる。内訳は入学金五万円、授業料六万円、施設費二千円である。理由には以下の二点が挙げられた。

第一に、学校の経営コスト及び維持費の上昇がある。平成元年までの八年間の学費据え置きにより、学費収入の上昇が必要となった。

第二は、周囲の学校との学費の差をなくすことである。理事会側は、その説明として「日本のインフレ的な経済政策の波に本学も入っているので、本学のみ、その波から抜け出すわけにはいかない」と述べている。

二、三年連続学費が値上げされたことについて

ここ三年程の日本経済の動きより、この基準がよいと理事会で決定した。

（二）スライド制について

一、スライド制の解釈について

スライド制では、卒業まで入学時の学費は原則として据え置かれる。つまり、これはステップ制と言える。

二、学費値下げについて

値下げをすることはない。その理由は「世の中はそんなに簡単なものではない。公務員給与が減額される社会環境では、学校の経営が圧迫されてしまう」からである。

（三）今後について

一、平成五年度の学費値上げについて

まだ、決定していない。しかし、やはり他の薬科大学と格差をつけるわけにはいかないと考えている。

学費値上げによって増える学生の負担は、奨学金の充足により対応する。

二、厚生施設等について

厚生施設等の充実のための学費値上げであったので、学生からの要望は受け、論議したい。

三、カリキュラムについて

四年次の夏休みに就職試験だけでなく、教育実習及び病院実習が重なっている。確かに、カリキュラムは見直す必要がある。その際には、オリエンテーション等を開催し、学生側の意見を聞く意志がある。

（四）その他

一、学費値上げにおける受験生へのイメージダウンについて

受験のようなことは、一生に何度あるかわからない。学費値上げのようなことで受験生が痛手を被ることはない。学生は学費よりも、学校の中身を考慮して受験している。

二、入試募集要項に、学費が上がる可能性があると記してあることについて

原則として入学後の学費は据え置くことになっている。理事会側としては、社会情勢の変化により、授業料等が変動する可能性があることを述べておく。理事会で決定すれば、学費改訂も有り得る。学生は、募集要項を見て入学していると了承している。

今回の学内連絡会議は声を荒立てる人もなく、七十分程で終了した。学校側の参加者は、オブザーバーを含めると二十数名にのぼった。今回も昨年の学費値上げについての学内連絡会議と同様、参加を呼びかける掲示が中央ホール入り口の大学一般掲示板にあった。しかし、学生側の参加者は、新聞会の記者二人を含む四人のみであった。

学内連絡会議は、学生委員会、教務委員会、学生自治会の三者による会議である。学校側は、あらかじめ提出してあった学生からの質問に対しては、その専門分野からの代表者（おもに財務担当理事であったが）を出し、冷静に返答していた。しかしその説明が専門的すぎて、学生の理解する範囲を越えていた感があった。（関連記事は二面に）

ビデオカメラ購入決定

現在開かれている予算関係特別小委員会で自治会の備品としてビデオカメラ一台を購入することが決定した。今年度予算の自治会施設費は八十三万円であるが、このうち十五万円がこれに当てられる。

購入する機種は、パナソニックVP－S5である。購入を決定した以上はやく学生に貸し出しをはじめてほしいところだが、管理を受け持つ執行委員会の話によると、現在は薬祭前後で部室棟がかなり慌ただしくなっていて、盗難などの危険性があるという理由からやむを得ず十一月下旬の予定となった。

実際の貸出方法についてであるが、基本的には学生課で行われている講義室の貸出方法に基づいて行うとなっている。これは、学生課のこの貸出方法が現在までこれといった問題はなく順調にいっていることからも良いとされた。

貸出方法は、以下の通りである。

一、受け付けは貸し出し日の二週間前から行う。

これでもし二団体以上重なってしまった場合は話し合いが行われ、それで決まらなかった場合は抽選となる。

二、貸出期間は、土日の場合を含めて二・三日。

長期休業についてはまだ規定をもうけていない。これからの利用状況を見た上で、同委員会で話し合っていくとのことである。

三、破損等をした場合の罰則として、使用優先権はその団体について三カ月間認めない。

この「優先権を認めない」とは、申し込みが重なった場合その団体は他の団体にゆずらなくてはならないというものだ。

四、貸し出しはクラブまたはクラス単位（団体）、同好会、顧問のいるサークルについてのみ行う。個人に対しての貸し出しは行わない。

以上のような規定で、まず二・三カ月を試験期間として貸し出し、必要があればそのうちに改訂を考えるとのことである。

コーヒーブレイク

ドク・ハリウッド

主演はマイケル・J・フォックス。アメリカの片田舎を舞台にしたロマンティック・コメディだ。

劇中での彼の役は金と女しか眼中にないエリート医師。マイケルが軽薄なプレイボーイを「いかにも」という感じで演じている。

一獲千金を目指し、西へポルシェを走らせる若き医師、ベン・ストーン（マイケル・J・フォックス）。

ビバリーヒルズでは美容整形外科医の面接が待っている。しかし、とんだ田舎で車がフェンスに激突。壊したフェンスは弁償する、とすまなさそうなそぶりも見せずに言うベン。

それに対し、裁判官は「心を込めて作ったフェンスは金で弁償できるものではない。損害賠償は実働で償ってもらおう。」といい渡す…。

とそんなわけでいやいやながらも田舎での生活を始めるベンではあったが、この田舎と言うのが半端ではなく、思わず笑わずにはいられない。診察のお礼が生きた豚だったり、字が読めないので代わりに読んでくれといってくる夫婦がいたり。あるいは、せっかくの医師を逃がしてなるものかとベンを必死に定住させようとする町長らの行動が逆にいかにも反都会的で笑えるのだ。

ロマンティックな部分はどうかと言うと、ややコメディに流され気味である。それというのも、ベンが口説こうとしている女性ルー（ジュリー・ワーナー）が実に純朴で…例えば、全裸で水浴びを楽しんでいたりとか…それにベンがふりまわされっぱなしなのだ。

と、観客が笑っているうちにベンは街に残るべきかどうか迷い始める。大自然と素朴な人々との交流がうくに友達もいなかったベンの心に何かを残したのだ。

ところがベンを気に入った村人達はベンの真意も知らず送別会を開き、両思いになったルーまでもがさよならを言い出す始末。後ろ髪を引かれる思いで街を後にするベンだったが…。

先が読めてしまうストーリーだが、この映画は人混みの中においてきてしまった素朴な喜びを思い出させてくれる。

ラストの恋の決着はマイケルが粋に決めてくれる。熱愛とかでなく、じっにさりげなく愛を語ってくれるのだ。思わずニヤリとしてしまうこのシーンだけでも一見の価値があるだろう。

平成三年度進路状況

学生課就職室から、平成三年度学部・大学院進路先一覧表が提示された。十月十五日現在で既に六十五％以上の就職が内定している。内訳を見ると内定者の多い順に企業、薬局、病院、公務員、大学助手となっている。

一方進学者は五百三十六名のうち約十五％。男子七十六名、女子十五名である。

就職については早いものでは七月には内定が決まるものであるが、これまで後一年もない現三年生には、進学するにしても就職するにしても、そろそろ真剣に考えはじめていい時期ではないだろうか。

なお、十一月二十日、二十一日に就職映画会が行われ、四月七日、八日に就職ガイダンスが予定されている。これからの就職活動の参考にしてほしい。

今回の購入は、おもに体育部門からの要望であったが、一年間使用状況を見て、その結果使用頻度が高いようであったならば来年度の予算会議で増台について検討する予定である。

薬味

コロンブスが母港のパロス港を出帆して新大陸を発見する旅に出てから、今年で四百九十九年となる。祖国イタリアにおいても彼の功績は大きく評価されている▼とうもろこし・じゃがいも・さつまいも・チョコレート、これらはコロンブスが苦難の末に発見した新大陸アメリカから持ち出したものであり、ヨーロッパやアジアには無いものだった。もちろん彼は食料品だけではなく、ハンモック・カヌーなども発見しヨーロッパの人々に伝えたのである。当時とうもろこしの実は「はしばみの実のような非常においしい粒」として紹介され、じゃがいもは寒さや荒れ地に強く慢性的なヨーロッパの食料不足を補うエースとなった▼新大陸からは、喜ばしくないものもたらされた。その最たるものがあの梅毒である。梅毒は西インド地方の風土病として、以前から存在していたらしいのだがヨーロッパでは一四九三年より知られるようになった。この事からも、コロンブスを代表とする彼らによって梅毒がヨーロッパにもたらされた事は間違いないと言われている▼ダバコが健康を害するものである事は現在ほぼ立証されているが、コロンブスがタバコをヨーロッパに持ち帰ったと、園芸用あるいは医薬品として紹介した。インディアンがコロンブスに与えた説明がどのようなものであったか分からないが、その後しばらくの間は、タバコは医薬品として考えられ、イギリスでは小学校で授業の休み時間に先生の合図とともに生徒達がいっせいにパイプからしい煙を出す光景も見られたたらしした物によるさまざまな影響は、私たちの知る限りではないであろうが新大陸の発見が世界の歴史と人々の運命を変えた大事業であった事に変わりはない。この発見から来年でちょうど五百年を迎える。この機会に探検家コロンブスについて興味を持つのも良いであろう。（３８６Ｍ）

不明確な回答

今回の学内連絡会議は来年度の学費の値上げについて、その具体的な金額、そして上昇の理由等の説明を求めて学生自治会が学校側に要請して開いたもので、学生が十分理解できるような説明をしてもらうために、予め議題は理事会側に提出されていた。

今回の問題点は、はたして来年度の学費値上げが妥当であり、誰の目にも納得できるかどうかという点である。スライド制に基づく今年の学費の値上げ額である十一万二千円が、妥当で、納得できる額と判断するには、その値上げの理由、例えば経営コストの上昇の様子、その結果発生すると予想される事態、値上げ分の使途などが十分に説明されているべきで、そこに注意して今回の連絡会議について考察をする。

会議で学生側に示された回答は本紙一面に書いてあるとおりである。本題である、始めに説明された学費値上げの理由を主にふれるが、今回の連絡会議ではその具体的な部分について全く明らかにされなかった。このように主張する根拠として次のようなことをあげる。

第一に、今回の連絡会議では我々の判断のもととなるような具体的な資料が全く得られなかったこと。例えば「経営コストが上昇した」という理由を示す資料としてどのくらい上昇したかを示す数字や、ここ数年の上昇の様子など、「周囲の学校との学費の差をなくす」ことについて、学費に差があることでどんな弊害が生じているかなどといった、理事会の示す理由と、値上げとを結び付ける資料が口頭でも、書面でも得ることができなかったから、今回の説明は不十分だったということである。

第二に、説明に学生にわかるような表現を用いなかったことである。今回、学生側出席者の一人の執行委員長、小田真之君が「周囲の学校との学費の差をなくす」という回答について、その必要性を質問する場面があったが、この時のなされた回答が全く不可解なもので、

『インフレ的な経済政策の波の内に本学も入っているので本学のみその波から抜け出す訳にはいかない。』

我々は経済の専門家でなく、またそれを十分に学んでいるわけではない。だが理事会はその様な一般学生にも、それこそ一般大衆にもわかるような平易な言葉を用いてその方針、その方策の理解につとめる義務があるといえないだろうか。真実でなく偏見であると信じたいが、このような説明ではてきとうに学生の目先を反らしておこうとか、学生に理解してもらおうなどとは思っていないという意志のあらわれがあるような気がしてならない。

他の質問に対する回答も同様の根拠で、やはり満足な説明ではなかった。学費値上げのような重大な決定に、明確な理由を満足に説明出来ないような理事会側の態度では学生側の理解は一向に得られないであろう。

ところで学生側の出席者は小田真之執行委員長、山田剛自治委員会議長、それに新聞会から記者としての二人の計四人だけであった。学校側の二十四人に対して非常に寂しいものである。大学一般掲示板の掲示には、学生の出席を制限する記述はなかったはずである。今回の理事会の決定には一般在学生に影響する内容は含まれていなかったが、普通、理事会の学校運営に関する決定は我々在学生に何らかの形で影響する。したがって一般学生は理事会の決定にもっと目を光らせていなければならない。我々学生はそのような点に怠慢にならぬよう心がけるべきである。

以上の内容が示すとおり、今回の学内連絡会議は、当初の目的を達成せず結局は不成功であったと我々は結論づけるのである。

論説

多すぎる情報

情報化社会に於いて多くの情報を個人が得る事が可能になった反面、あまりに多くの情報が強制的に入ってくるようになった。

学校教育だけでなく、流行するファッションや自然保護も知らなければ社会の一員ではないとの認識から我々はそれらの情報を得るのではなく、与えられてきた。雑誌やテレビメディア、教育問題や環境問題、ファッション情報を伝えていない日はない。そのため我々は「情報とは与えられるもの」という認識をしているのではないだろうか。

一般に学生は無関心、または情熱がないと言われているが、原因の多くは充足した環境にある。多くの強制的な情報を処理するのに精いっぱいで自ら望んで自由な情報を得ようとしないのである。

物事の原因には他因的つまり環境にあるものと自発的なものがある。確かに情報の処理に時間をとられて他の事が出来難いと言う面もあるが、それ以上のものを得ようとしない姿勢では何も得ることはできない。

人間は「何か」が足りないときにはそれを得ようとして行動をするが、すべて充足した状態では「良い現状」を失いたくないと考えがちである。

しかし与えられる情報のみでよいのだろうか。良い現状を維持するにはその為の情報が必要である。情報が少ないために、ある集団の「善行」が他人にとっての「悪行」となる場合もあるのだ。例えばゴルフ場である。一部を除けば地域振興や地元の雇用促進といった良い面を考えて造るのだろうが、農薬の汚染等が問題になってしまった。

多すぎる情報はかえって情報に対する感覚を麻痺させる事がある。それは仕方のない事かもしれないが、与えられるからといって自分からは何も見ない、何も聞かない、何も言わない、ではいけないだろう。

情報に対する感覚を麻痺させる事がある。それは仕方のない事かもしれないが、与えられるからといって自分からは何も見ない、何も聞かない、何も言わない、ではいけないだろう。

（越智隆夫）

体育祭終了

去る十月十六日（水）学内グラウンドにて体育祭が開かれ、各クラブや研究室から多くの学生が参加し熱戦をくりひろげた。

競技種目は「騎馬戦」「棒倒し」や各種リレーのような一般的なものから恒例の「恋人探し」、新登場の「ドッジボール」「縄跳び」、一風変わった「東薬ダービー」など多くの学生が楽しめるような工夫を凝らした種目が数多く用意されていた。

なお総合成績及び得点、主な種目の結果は次の通りである。

★総合順位・得点
◇優勝：一一四〇点・青チーム（陸上・バスケ男・バスケ女・自動車・ハルモ・アーチエリー・一衛生・二衛生・一生化）
◇二位：九二五点・黄チーム（空手・硬庭男・硬庭女・漢研・一薬理・一分析・二薬剤・臨床薬学）
◇三位：八四五点・赤チーム（サッカー・ゴルフ・卓球男・卓球女・ギター・アス研・一薬化・薬剤製造・二薬理・臨床薬理）
◇四位：八四〇点・白チーム（バイ・ボ・ダンス・軟庭男・軟庭女・バトミ女・ESS・一微・一薬剤・二品化・薬品物化）
◇五位：七六五点・緑チーム（スキー・柔道・バレー男・バレー女・合唱・軽音・薬植・化学・一生薬・二薬化）
◇六位：六二〇点・紫チーム（野球・ワンゲル・剣道・やきもの・旅研・一品化・二生化・臨床生化・二生薬）
★男子スウェーデンリレー
◇優勝：陸上B（二分二一秒一〇）
◇二位：陸上A（二分二二秒二八）
◇三位：サッカー（二分二四秒八九）
◇四位：硬庭（二分二七秒三六）
◇四位：薬剤製造（二分二七秒三六）
◇六位：バスケ（二分二七秒七六）
★女子スウェーデンリレー
◇優勝：バスケB（一分四〇秒六七）
◇二位：硬庭C（一分四一秒二）
◇三位：軟庭（一分四一秒八四）
◇四位：バスケA（一分四二秒八）
◇五位：硬庭B（一分四三秒三〇）
◇六位：ゴルフ（一分四四秒二六）
★チーム対抗リレー
◇優勝：青チーム（六分四二秒七一）
◇二位：白チーム（六分四六秒五四）
◇三位：緑チーム（六分四六秒八九）
◇四位：赤チーム（六分四七秒八二）
◇五位：紫チーム（六分五一秒一二）
◇六位：黄チーム（六分五二秒七）
★男子研究室対抗リレー
◇優勝：臨床薬理（一分三六秒六四）
◇二位：薬剤製造（一分三七秒八二）
◇三位：一微（一分三九秒三〇）
◇四位：一衛生A（一分四一秒七）
◇五位：薬植（一分四一秒二〇）
◇六位：二衛生（一分四二秒三三）
★混合研究室対抗リレー
◇優勝：薬剤製造（一分四八秒三）
◇二位：一薬剤（一分四八秒八）
◇三位：臨床薬理（一分五〇秒一〇）

※なお四位の薬剤製造は決勝戦、飛び入り参加。

執行に新しい動き

このところ自治会の掲示スペースに、以前とは全く異なったタイプの公示が貼られている。「駐車区画を守ろう」という学生に対する注意の公示である。百台駐車場で、自分の駐車区画に他人が駐車していて、契約をした自分の車が駐車できないという苦情を受けて執行委員会が掲示したものである。

後期にはいって、自治会の「注意の公示」意見広告はこれが二つめで、第一弾は「談話室をきれいに」という趣旨で、学生談話室を利用する学生にむけたものであった。これは前期学生大会で生協組織部から提起された問題、「学生談話室が空き缶などで汚されていてるのを見てどう考えるか」に対して執行委員会が行った処置のひとつで、この後の方策については協議中とのことである。

このような苦情は今に始まったものではないが、最近より一層ひどくなったといわれる。他人は他人、自分の知ったことではないという個人主義の風潮のせいか学生同士でお互いを注意し合わないことがさらに拍車をかけているのであろう。そして自治会もいままでこの状況について特に表だった行動をしたことはなく、結果的には自治会も見て見ぬふりをしてきた。

そこで連続してこのような広告を出したことについて執行委員会に伺ったところ「今年の執行委員会は学生の動きがあればそれに対処して注意すべきところはきちんと注意する。」として、今年の執行委員会は前述のような状況に対し、無策のままではないことを明言した。

自治会の存在理由のひとつである「学生をまとめる」という点からいえば、自治会が今回の公示のように個々の学生の不徳な行動やマナー違反に対して注意を促すことは当然である。しかし実際にはそのような例がほとんどなかったことも考え合わせると、今回のように学生の不徳な行いに自治会が毅然とした態度をとり、然るべき対処をすることや、さらにそれをはっきり宣言できることは大いに評価できることである。今後もこのような方針が続くよう強く望まれるものである。

十一月行事予定

二日～五日　東薬祭
六日　創立記念日

街路樹の、木の葉を運ぶ秋風が冷たくなってきました。いよいよ秋。どことなく感傷的な季節です。試験に追われる事もないこの季節、自分の時間を有効に使いたいものです。

編集後記

〒今後怪鳥と呼ん下さい。くえーっ！（鳥顔の違法人）
#誰か遊んで下さい。遊ぼ、遊ぼ、ねー遊ぼ。（ぎょぴ）
※学校の近くに住んでるってすごく不幸！（ぽん太）
▼つかれたよ。（ムーミン）